

公益財団法人日本郵趣協会

2022年度事業報告（2022年4月1日～2023年3月31日）

【事業活動の総括】

公益財団法人日本郵趣協会は定款に基づき、郵趣を通して郵便切手文化の向上発展に資するとともに未来に継承し、心豊かな潤いのある社会創造に寄与することを目的として活動を行った。2022年度は赤字予算でスタートしたが、費用圧縮努力と収益強化に努め、正味財産を取り崩すことなく予定した事業活動を行うことができた。今後も安定した運営ができるように財政基盤を確保することに努めていく。

また、コロナ禍で順延となっていた日本郵趣協会創立75周年記念祝賀会を帝国ホテルにて開催し、147名の参加者で75年の歩みを振り返り、創立100年に向けた決意を新たにした。この祝賀会では、創立75周年特別功労者表彰(19名)を実施し、会員への感謝の気持ちを伝えた。さらに、ウクライナにおいて苦しい生活を余儀なくされている方々を支援するため、祝賀会でのチャリティーオークション、加えてスタンプショーでの募金を行い、国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR)に義援金を寄付した。

2022年度は、昨年度同様に「郵趣の深耕」、「郵趣のダイバーシティ拡大」、「郵趣活動のバリアフリー化」を基本方針に掲げ事業を推進した。「郵趣の深耕」は日本郵趣協会が長年にわたり培ってきた郵趣文化をさらに深める活動であり、「郵趣のダイバーシティ拡大」は郵趣の範囲を広げることで新たな仲間へ郵趣の楽しさを広げる活動、そして「郵趣活動のバリアフリー化」は誰でもどこでも郵趣を楽しめる環境の整備である。

郵趣の深耕としては、研究を深める『郵趣研究』の刊行、研究成果を発表するミニペックス、全国切手展JAPEXの開催などを引き続き実施した。『郵趣研究』では、新規執筆者数目標5名こそ達成できなかったものの、その前身である『フィラテリスト』以来、初の女性執筆者を獲得できたことは、「郵趣のダイバーシティ拡大」への貢献という点において特筆すべきである。また、『ビジュアル日専』では、2冊目となる手彫切手編を刊行した。研究会によるミニペックス(研究発表会)は17回開催し、3,000名余の参観者に研究成果を見ていただいた。更には、先進郵趣研究を広く周知するための「郵趣カンファレンス」は、2020年度の3回から、本年度は5回へと回数を増やすことができた。

郵趣のダイバーシティを拡大し、新たな仲間へ郵趣の楽しさを広げる活動として、日本郵趣協会では1977年以来「世界切手まつりスタンプショー」を開催してきた。2022年度は「世界の切手ワンダーランド」を開催テーマとし、コロナ禍にも関わらず前年度を大きく上回る3,200名の参観者を集め、多くの方に郵趣の楽しさを知っていただいた。また、郵便文化を小学生児童に親しんでもらうために行なっている「ゆうびんde自由研究・作品コンテスト」では、参加小学生の励みになるよう、2022年度より文部科学大臣賞を新設し表彰を行った。

郵趣を多くの方に、平等に楽しんでもいただくバリアフリー化として、2021年度に試行した「オンライン『郵趣』」を月例化し、毎回30-50人程度の方に楽しんでもいただいた。本活動は当初、支部例会などの郵趣会に参加しづらい国内在住の方を想定していたが、米国や台湾などの海外から、日本人のみならず外国人の方にも参加いただき、量的にも、質的にも大きな成果を挙げる事ができた。今後は、このようなオンライン郵趣会が自立的に開催される文化を醸成し、誰でも、どこでも郵趣を楽しめる環境を広めていく。

以上の事業を推進する基盤力の強化、「会員力の増強」「財政の安定」「よりよいイベント」という3つの柱を実現させるため、春と秋の入会キャンペーンを行った。また、公益事業資金の造成として、パートナー・サポート企業・団体の募集、財政安定化寄附金、スタンプショー2022寄附金、JAPEX2022寄附金を募った。

日本郵趣協会では、「郵趣の深耕」、「郵趣のダイバーシティ拡大」、「郵趣活動のバリアフリー化」の3つの方針のもと、今後も郵趣のため事業を発展させ継続する。

I 公益目的事業

1. 普及啓発事業

万国郵便連合(UPU)加盟約190の国・地域から発行されている郵便切手類が持つ歴史、美しさ、芸術性といった文化的価値を広く社会一般に認識してもらうため、楽しみながら知ることのできる機会を創出した。また、郵便切手文化を次世代に継承するため、質の高い情報を積極的に提供するとともに幅広い分野で普及啓発活動や情報発信を実施した。

(1) 「全国ミニ切手展」キャンペーン

年間を通じて、全国の郵便局、学校、博物館など公共施設を中心として、日本及び世界各国の郵便切手類を展示する「全国ミニ切手展」を277カ所(前年度292カ所)で開催した。特に4月の「切手趣味週間」(切手趣味週間の切手発行日から1週間)期間はキャンペーンを行い開催の促進を図った。実施テーマにあたっては、地域特性を活かした内容、タイムリーで話題性の高い内容等を選定し、郵便切手文化の普及啓発に努めた。

(2) 展覧会来場者促進キャンペーン

登録支部・団体及びパートナー・サポート企業・団体との協働・連携の下、全国規模の展覧会への来場者促進キャンペーンを実施した。キャンペーンの取り組みとして、特典情報を掲載したチケット等の作成・配布、集客文化イベントを実施するとともに、広く情報発信を図った。

①スタンプショウ2022来場者促進キャンペーン

実施期間:2022年3月1日(火)～4月24日(日)

キャンペーンはがき:配布枚数270枚、回収枚数:33枚(回収率12.2%)

②JAPEX2022来場者促進キャンペーン

実施期間:2022年9月1日(木)～11月6日(日)

キャンペーンはがき:配布枚数250枚、回収枚数:49枚(同19.6%)

③STAMP-SHOW2023来場者促進キャンペーン

実施期間:2023年3月1日(金)～4月23日(日)、キャンペーンはがき:配布枚数185枚、回収枚数:51枚(同27.5%)

(3) 切手ワークショップ

郵便切手文化を学び、触れる楽しみを広げ、その社会的プロセスを通じてSDGs(持続可能な開発目標)の考え方を理解してもらうため、切手ワークショップを開催した。実施テーマにあたっては、初心者の人でもわかりやすく、親しみのもてる内容等を選定した。

①切手ワークショップ「入門コース・作品コース」

広く一般を対象にして、全6回、入門コース・作品コースを計画したが、新型コロナウイルス感染拡大により、開催は3回に終わった。

[6月度] 内容:切手など郵趣品の話、開催日:6月25日(土)、参加者:6名

[9月度] 内容:切手など郵趣品の集め方と整理の仕方、開催日:9月24日(土)、参加者:7名

[11月度] 内容:マイリーフ作成ガイド、開催日:11月26日(土)、参加者:8名

[1月度] 内容:マイリーフ作成実習、開催日:2023年1月21日(土)、参加者:8名

[2月度] 内容:アルバムリーフ作成、開催日:2023年2月18日(土)、参加者:7名

[4月度] 内容:アルバムリーフの展示のみ実施、開催日:2023年4月22日(土)、参加者:7名

②児童向け切手ワークショップ

内容:切手はり絵、切手しおり作り、ふるさと切手ラリー、開催日:7月21日(木)、会場:世田谷区立給田小学校(世田谷区)、[開催中止]

内容:切手うちわ、切手しおり作り、切手のつかみどり、開催日:8月7日(日)、会場:プラザ浦和住宅公園(さいたま市)、[開催中止]

(4) 郵趣入門ガイドブック

郵便切手類の入手・保存・楽しみ方についてわかりやすく解説した郵趣入門ガイドブックの2021年度改訂版及び新規版を制作してホームページに公開するとともに、全国規模の展覧会、地方本部主催の展覧会等において普及啓発活動を展開した。

- ①「郵趣スタートガイド～初めて郵趣を楽しむ方のために～」
- ②「郵趣リーフ作成ガイド～初めてのトピカル・リーフ作り～」
- ③「日本切手で始めるスタートガイド」
- ④「知って得する切手入手ガイド」
- ⑤「やさしい郵趣用語集」
- ⑥「トピカル郵趣 作品制作ガイド」
- ⑦「テーマティック郵趣 作品制作ガイド」
- ⑧「楽しく切手を集めよう!」(新規制作)

(5) 郵趣図書の普及促進

郵便切手類の歴史及び郵便制度の研究に必要な出版物を広く全国の公立図書館に配備・リクエストすることにより、地域市民の誰でもが郵便切手文化の学習活動に平等な機会が得られることを実現し、教育と文化の発展に寄与した。

(6) WEBサイト及びSNSの活用

情報公開の重要性に鑑み、切手発行情報、展覧会、出版物及び文化シンポジウム等に関する最新情報をホームページ及び公式SNS[**Twitter**(ツイッター)、**Facebook**(フェイスブック)、**Instagram**(インスタグラム)、**YouTube**(ユーチューブ)等]に適時掲載し、広く社会一般に公開、提供した。また、**Zoom**(ズーム)を活用した切手のつどい「オンライン郵趣」及びバーチャル空間による「オンライン展覧会」を開催配信し、オンラインとリアルイベントを連動させたハイブリッド型による郵便切手文化の普及促進を図った。

ホームページ総セッション:1,803千件(前年対比140%)、**Twitter**フォロワー:79,506(同110%)、**Facebook**フォロワー:(7,058名(同105%)、**Instagram**フォロワー:1,439名(同177%)、**YouTube**チャンネル登録者数:276名(同132%)。

(7) 全国郵趣大会

全国各地における郵趣活動の結びつきを図り、郵趣に関する情報並びに課題の共有・活用の推進を図るため、全国郵趣大会を開催した。併せて、郵便切手文化の普及啓発並びに学術調査研究に貢献した功労者の顕彰、文化シンポジウム等の企画イベントを実施するとともに、交流と親睦を深める記念レセプションを開催した。

①全国郵趣大会2022in川越(第40回)&関東郵趣大会2022in川越(第38回)

会期:6月11日(土)、会場:川越プリンスホテル(埼玉県川越市)、後援:日本郵便(株)関東支社、川越西郵便局。参加者96名、内容:記念式典、顕彰事業セレモニー、記念講演、分科会、寄贈品オークション。
企画運営:関東地方本部。

②全国郵趣大会2023in札幌(第41回)[準備作業]

会期:9月23日(土・祝)、会場:ホテルポールスター札幌(札幌市)、後援:日本郵便(株)北海道支社[予定]、企画運営:北海道・東北地方本部。

(8) 地方本部主催の「切手のつどい」

郵便切手文化に関する情報の発掘、収集を行うとともに、その結びつきを図り、地域市民の資源として共有・活用する基盤作りのため、誰でもが参加・交流できる「切手のつどい」を開催した。

①福山切手のつどい2022春

会期：4月29日(金・祝)、会場：まなびの館ローズコム[福山市生涯学習プラザ](広島県福山市)、参加者60名(同50名)、主催：中国・四国地方本部、福山支部

②新潟県郵趣の集い2022in三条

会期：6月5日(日)、会場：三条商工会議所会館(新潟県三条市)、参加者28名(同中止)、主催：中部地方本部、沼津支部

③静岡県郵趣の集い2022in浜松

会期：6月25日(土)・26日(日)、会場：磐田・醍醐荘(静岡県磐田市)、参加者31名(同20名)、主催：中部地方本部、浜松支部

④岡山切手のつどい2022

会期：6月26日(日)、会場：岡山国際交流センター(岡山市)、参加者50名(同中止)、主催：中国・四国地方本部、岡山支部

⑤福山切手のつどい2022夏

会期：8月21日(日)、まなびの館ローズコム[福山市生涯学習プラザ](広島県福山市)、参加者50名、主催：中国・四国地方本部、福山支部

⑥筑後地方切手のつどい2022

会期：8月28日(日)、会場：小郡市生涯学習センター(福岡県小郡市)、参加者40名(同中止)、主催：九州・沖縄地方本部、小郡支部

⑦防府切手のつどい2022秋

会期：9月25日(日)、会場：防府市公会堂(山口県防府市)、参加者50名(同45名)、主催：中国・四国地方本部、防府支部

⑧関西郵趣家のつどい2022・切手だいすき集まれ！

会期：11月26日(土)・27日(日)、会場：エディオンアリーナ大阪[大阪府立体育会館](大阪市)、参加者220名(同200名)、切手商ブース：8社8ブース(同6社6ブース)、主催：関西地方本部

⑨防府切手のつどい2023冬

会期：2023年1月22日(日)、会場：デザインプラザHOFU[山口・防府地域工芸・地場産業振興センター](山口県防府市)、参加者60名(同58名)、主催：中国・四国地方本部、防府支部

⑩北九州切手のつどい2023

会期：2023年2月12日(日)、会場：アジア太平洋インポートマート[AIM](福岡県北九州市)、参加者50名(同40名)、主催：九州・沖縄地方本部、北九州支部、後援：日本郵便(株)北九州中央郵便局

⑪広島切手のつどい2023

会期：2023年2月26日(日)、会場：ホテルチューリッヒ東方2001(広島市)、参加者80名(同中止)、主催：中国・四国地方本部、広島鯉城支部

⑫春の関西郵趣家のつどい2023

会期：2023年3月25日(土)、会場：大阪市立社会福祉センター(大阪市)、参加者：80名(同60名)、主催：関西地方本部

2. 展覧会事業

郵便切手類及び郵便制度に関する研究を発展させるとともに、作品を鑑賞することにより豊かな情操を

養い郵便切手文化に理解を深めるため、展覧会を開催した。郵便切手文化の独自性と継承性を確立することで出品者及び参観者の高いモチベーションを維持し、文化シンポジウム・イベント等を企画・実施してPR効果を高め、集客の増加を図った。また、積極的にパートナー・サポート企業・団体との協働プロジェクトを推進し、企画プログラムの充実、より多様なニーズに応えた。

(1) 全国規模の展覧会

①世界切手まつり スタンプショウ2022(第46回)

世界各国の郵便切手類や郵便消印に関して楽しみながら知ることのできる展覧会として、企画展示「切手にみる食の世界」、「鉄道開業150周年記念切手展」、「切手趣味週間切手発行75年」、「復帰50周年記念沖縄切手展」、「ウクライナ切手展」の開催、フリースタイル切手展2022、第23回トピカル切手展の作品を公募した。

開催テーマ:「世界の切手ワンダーランド」会期:4月22日(金)~4月24日(日)、会場:東京都立産業貿易センター台東館(台東区)、来場者:3,200名(前年度1,400名)。特別協賛:日本郵便(株)、協賛:(株)伊藤園、えにし書房(株)、関東交通印刷(株)、(株)鼓月、相模鉄道(株)、(株)日本郵趣出版、(株)不二家、町田酒造(株)、(株)郵便局物販サービス、ロック製菓(株)、(株)funbox、協力:切手の博物館、郵政博物館、日本郵便切手商協同組合。競争出品:(1)フリースタイル切手展2022:34作品(同25作品)、(2)第23回トピカル切手展:24作品84フレーム(同16作品45フレーム)。切手商ブース:27店35ブース(同21店25ブース)。

②世界切手まつり STAMP-SHOW2023(第47回)[準備作業]

広く一般の方々に郵便切手文化を身近なものとして楽しんでもらえるように開催テーマを設定し、企画展示及び企画イベントの実施計画について運営準備を進めた。またパートナー・サポート企業・団体の協賛を募った。

開催テーマ:「切手とともに、手紙を『贈ろう。』」、企画展示「世界の王室切手展」、「手紙を楽しもう展」の準備作業、会期:2023年4月21日(金)~4月23日(日)、会場:東京都立産業貿易センター台東館(台東区)、特別協賛:日本郵便(株)、協賛:(株)伊藤園、(株)伊東屋、えにし書房(株)、(株)鼓月、(一社)世界押花芸術協会、銚子電気鉄道(株)、(株)日本郵趣出版、(株)不二家、(株)ポパル、町田酒造(株)、(株)funbox、協力:切手の博物館、郵政博物館、日本郵便切手商協同組合、手紙社。

③第57回全国切手展(略称:JAPEX2022)

郵便切手類と郵便制度の研究成果を発表するコンクール形式の展覧会として、企画出品「富士鹿切手発行100年展」、「国体切手発行75年展」、「アメリカ切手発行175年展」の開催、チャンピオン・クラス、伝統郵趣、郵便史、ステーションナリー、航空郵趣、テーマティック、ユース、文献、ワンフレーム、オープン、その他の全11クラスの競争作品を公募した。本展覧会において金銀賞以上の賞を受賞した作品には、国際郵趣連盟(FIP)主催の国際切手展への出品資格が付与された。併せて、公式ガイドブック、記念出版物を発行して、研究発表の成果を広く一般に公開した。

開催テーマ:「次世代につなげる 郵趣でつながる希望」、会期:11月4日(金)~11月6日(日)、会場:東京都立産業貿易センター台東館(台東区)、入場者:3,200名(前年度3,000名)、後援:外務省、文部科学省、アメリカ大使館、東京新聞、産経新聞社、協賛:日本郵便(株)、(株)伊藤園、(株)鼓月、(株)日本郵趣出版、町田酒造(株)、協力:(公財)通信文化協会、(一社)全日本郵趣連合、日本郵便切手商協同組合。

企画出品:「富士鹿切手発行100年展」4作品16フレーム、「国体切手発行75年展」5作品13フレーム、「アメリカ切手発行175年展」25作品68フレーム、競争出品:91作品258フレーム(前年度98作品303フレーム)。外国郵政ブース:3カ国(モナコ、スロベニア、国連)、切手商ブース:25店32ブース(同24店29.5ブース)。

④第58回全国切手展(略称:JAPEX2023)[準備作業]

郵便切手類及び郵便制度に関する研究をさらに発展させるため、企画出品及び文化シンポジウムの実施計画について運営準備を進めた。

開催テーマ：「穏やかな日々を郵趣とともに」、企画出品：「関東大震災100年 関東大震災と郵便展」、「郵便はがき誕生150年 郵便はがき展」、「ウクライナ切手展」の準備作業、会期：2023年11月3日(金・祝)～11月5日(日)、会場：東京都立産業貿易センター台東館(台東区)、後援：外務省、文部科学省、ウクライナ大使館、産経新聞社、東京新聞、協賛：日本郵便(株)他、協力：ウクライナ郵政、(公財)通信文化協会、(一社)全日本郵趣連合、日本郵便切手商協同組合 [以上予定]

(2) 地方本部主催の展覧会

①スタンプショウ高松2022(第13回)

会期：4月16日(土)・17日(日) [開催中止]、会場：アイパル香川(香川県高松市)。

②横浜楽しい切手展in目白2022(第11回)

会期：5月3日(火・祝)～5日(木・祝)、会場：切手の博物館(豊島区)、来場者：370名(前年度300名)、主催：関東地方本部、横浜支部、後援：神奈川新聞社。

③スタンプショウくだまつ2022

会期：6月18日(土)・19日(日)、会場：スターピアくだまつ[下松市文化健康センター](山口県下松市)、来場者：120名(同中止)、主催：中国・四国地方本部、周南支部。

④関西スタンプショウ2022(第35回)

会期：7月30日(土)・31日(日)、会場：大阪マーチャンダイズ・マートビル[OMM](大阪市)、来場者：430名(同250名)、企画テーマ：「平和」、21作品44フレーム、切手商ブース：10店10ブース(同10店10ブース)、主催：関西地方本部。

⑤スタンプショウ広島2022(第39回)

会期：9月3日(土)・4日(日)、会場：広島県立産業会館(広島市)、来場者：370名(同190名)、企画展示：「日本の郵便印と郵便制度」、29作品57フレーム、切手商ブース：7店7ブース(同5店5ブース)、記念講演：「日本切手の壺を語る」山口充氏、主催：中国・四国地方本部、スタンプショウ広島実行委員会、後援：日本郵便(株)中国支社、(特非)郵趣振興協会。

⑥彩PEX2022(第23回)

会期：9月24日(土)・25日(日)、会場：ウェスタ川越(埼玉県川越市)、来場者：150名(同200名)、企画テーマ：「川越市市制施行100周年」、30作品1,120フレーム、主催：関東地方本部、川越支部、後援：川越市教育委員会、埼玉新聞、埼玉県郵趣連合、日本郵便(株)川越郵便局、川越西郵便局。

⑦スタンプショウかごしま2022(第25回)

会期：10月1日(土)・2日(日)、会場：サンプラザ天文館(鹿児島市)、来場者：140名(同中止)、主催：九州・沖縄地方本部、鹿児島支部、後援：日本郵便(株)九州支社、南日本新聞社、NHK鹿児島放送局、MBC南日本放送、KTS鹿児島テレビ、KKB鹿児島放送、KYT鹿児島読売テレビ、エフエム鹿児島、鹿児島シティエフエム。

⑧大阪秋の切手展2022(第10回)

会期：10月8日(土)・9日(日)、会場：京セラドーム大阪「スカイホール」(大阪市)、来場者：280名(同250名)、企画テーマ：「鉄道」、切手商ブース：5店5ブース(同4店4ブース)、主催：関西地方本部、後援：日本郵便(株)近畿支社。企画展示：鉄道切手。

⑨スタンプショウはかた2022(第35回)&全九州ジュニア切手展(第40回)

会期：10月15日(土)・16日(日)、会場：TKPカンファレンスシティ博多(福岡市)、来場者：200名(同190名)、特別展示：「福岡中央郵便局開局150年」、切手商ブース：6店6ブース(同6店6ブース)、主催：

九州・沖縄地方本部、福岡支部、後援：日本郵便(株)九州支社、福岡市教育委員会、RKB毎日放送、九州朝日放送、FBS福岡放送局、TVQ九州放送、テレビ西日本、読売新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社、西日本新聞社。

⑩中部スタンプショウ2022in長岡(第21回)

会期：10月29日(土)・30日(日)、会場：まちなかキャンパス長岡(新潟県長岡市)、来場者：30名(同150名)、主催：中部地方本部、長岡支部、後援：日本郵便(株)信越支社、新潟日報社。

(3) 展覧会への出品促進

競争作品を公募するコンクール形式の展覧会への応募促進を図るため、あらゆる機会を活用した周知活動を行うとともに、公募前に出品物の添削・助言等を行い、審査結果発表後に出品者への助言の機会を設けた。

①フリースタイル切手展、トピカル切手展の応募ガイド・PDF入力フォームを作成し、出品希望者への配布及びホームページにおいて公開した。

②「JAPEX2022ルールブック」(JAPEX2022開催概要、JAPEX2022特別規則、JAPEX一般規則、JAPEX審査基準、JAPEX出品に関するQ&A等)を作成し、出品希望者への配布及びホームページにおいて公開した。

③新規出品者の育成及び出品コンサルティングの実施

当協会事務局での対面及び通信添削において、作品コンサルティングを実施した。JAPEX新規出品者：6名(前年度5名)、出品コンサルティング利用者：8名(同9名)。

④クリティーク(審査員と出品者との対話)の実施

実施日：11月6日(日)、会場：第57回全国切手展JAPEX2022〔東京都立産業貿易センター台東館(台東区)〕、参加者：17名(同20名)。

⑤応募作品のデータベース化

直近10年間のJAPEX出品者の入賞記録をデータベース化し、全国切手展の審査において活用した。

(4) 公認審査員制度と審査員の育成

コンクール形式の展覧会において適正な判定と円滑な運営を行うため、公認審査員制度を活用して国内審査員の育成を図った。また、11月6日(日)に郵趣カンファレンス『現代郵趣を例にした競争展出品戦略』を開催し、国際切手展の審査基準に適用した作品作りと出品戦略を解説した。

3. 出版事業

郵便切手類及び郵便制度に関する情報を社会一般に広く供するため、万国郵便連合(UPU)加盟約190の国・地域から発行されている郵便切手類に関する内容、意匠、データ並びに郵便制度に関する研究を基にして、各種出版物を発行した。

(1) 書籍及び研究報告書

①郵趣モノグラフ『テーマティック郵趣 発展の変遷』(7月20日刊行)

②創立75周年記念出版『戦後の日本郵趣史』[刊行準備作業]

③研究報告書

(2) 定期刊行物

①切手を楽しむ雑誌『郵趣(YUSHU)』月刊/12回発行

②週刊速報紙『郵趣ウィークリー』週刊/50回発行

③郵趣専門誌『郵趣研究(The Philatelic Studies)』隔月刊/6回発行

④WEB版『世界新切手ニュース』月刊/12回配信

⑤WEB版『郵趣ウィークリー』週刊／50回配信

⑥WEB版『郵趣研究』隔月刊／6回配信

(3) 切手カタログ

①『さくら日本切手カタログ2023』(4月20日刊行)

②本土復帰50周年記念『沖縄切手総カタログ増補版』(5月1日刊行)

③『新中国切手カタログ2023』(12月25日刊行)

④『ビジュアル日専JSCA 1871-1876 手彫切手編』(2023年3月20日刊行)

⑤『ビジュアル日専JSCA 1948-1965 産業図案・動植物国宝切手編』[刊行準備作業]

4. 学術調査研究事業

郵便切手類及び郵便制度に関する情報(データベース)などを基に学術調査研究を行い、その研究成果を広く社会一般に還元するため、活動事例紹介、研究発表会(ミニペックス)、郵趣カンファレンス、文化シンポジウム等を開催し、広く一般に知的情報の公開・周知を図った。

(1) 研究会

専門分野別に研究会を設置して学術調査研究の充実・発展を図るとともに、未分野の研究会設置を促進した。全国規模の展覧会においては、誰でもが参加できるブース形式またはディスカッション形式により、各研究会の活動事例紹介を実施した。

①世界切手まつり スタンプショウ2022(第46回)

会期:4月22日(金)～4月24日(日)、切手の集い:5研究会、延べ参加者:35名。

②第57回全国切手展 JAPEX2022

会期:11月4日(金)～11月6日(日)、切手の集い:4研究会、延べ参加者:52名。

(2) 研究発表会(ミニペックス)

研究会による学術調査研究成果の発表会を「ミニペックス」と称して、切手の博物館(豊島区)において広く一般に公開した。研究発表会では、研究作品の背景と郵趣の本質を分かりやすく説明する作品解説等を実施した。

①パソコン郵趣切手展2022

会期:4月2日(土)・3日(日)、来場者:150名(前年度中止)、研究発表:パソコン郵趣研究会

②メータースタンプ研究会展2022

会期:5月27日(土)～29日(日)、来場者:180名(2020年度80名)、研究発表:パソコン郵趣研究会

③昆虫切手研究会50周年記念 第35回昆虫切手展

会期:6月4日(土)～6月5日(日)、来場者:170名(前年度中止)、研究発表:昆虫切手研究会

④イギリス切手研究会切手展2022

会期:6月11日(土)・12日(日)、来場者:150名(同120名)、研究発表:イギリス切手研究会

⑤第11回世界の植物切手展

会期:6月24日(金)～6月26日(日)、来場者:260名(同中止)、研究発表:植物切手研究会

⑥アメリカ切手展2022 america'22

会期:7月1日(金)～7月3日(日)、来場者:120名(同100名)、研究発表:アメリカ郵趣研究会

⑦第19回震災切手と震災郵趣展

会期:9月30日(金)～10月2日(日)、来場者:110名(同100名)、研究発表:震災郵趣研究会

⑧鉄道150年記念鉄道切手展 Railpex2022

会期:10月13日(木)・10月14日(金)、来場者:280名(2020年度200名)、研究発表:鉄道郵趣研究会

⑨JPS航空郵趣研究会展2022—国際航空郵便再開75年—

会期：10月22日(土)・23日(日)、来場者：310名(前年度180名)、研究発表：航空郵趣研究会

⑩第19回絵画切手展

会期：10月29日(土)・30日(日)、来場者：210名(同中止)、研究発表：絵画切手研究会

⑪シューベルト未完成交響曲200年 音楽切手展

会期：11月19日(土)・20日(土)、来場者：230名(同180名)、研究発表：音楽切手研究会

⑫第7回関東郵趣サロン 楽しい切手展

会期：2023年1月20日(金)～1月22日(日)、来場者：200名(同210名)、研究発表：関東郵趣サロン研究会

⑬第14回テーマティック研究会切手展

会期：2023年2月4日(土)・5日(日)、来場者：180名(同180名)、研究発表：テーマティック研究会

⑭北欧切手展 NORDEX2023

会期：2023年2月11日(土・祝)・12日(日)、来場者：170名(2020年度220名)、研究発表：北欧切手研究会

⑮パソコン郵趣切手展2023

会期：2023年3月4日(土)・5日(日)、来場者：130名(前回150名)、研究発表：パソコン郵趣研究会

⑯第15回聴覚障害者切手研究会切手展

会期：2023年3月11日(土)・12日(日)、来場者：140名(前年度140名)、研究発表：聴覚障害者切手研究会

⑰菊・田沢MINIPEX2023

会期：2023年3月17日(金)～3月19日(日)、来場者：140名(同150名)、研究発表：菊・田沢切手研究会

(3) 研究公開

郵便切手文化に関する研究事例、実践事例等の専門的知識・知見を幅広く共有するため、各専門研究会会報にとどまらず全国専門誌、ホームページ等において公開発表した。

①ホームページにおける研究公開「私の切手アルバム」

毎月バラエティに富んだ郵便切手文化研究作品を当協会ホームページに掲載し、広く一般に学術調査研究の実践例を紹介した。

②『郵趣研究』における研究公開

「文化人切手の製造面」「郵便史ゼネラル収集から見た外国郵便収集」「郵便規則・郵便条例時代の別配達・別仕立戦後コイル切手のリード紙」など多くの研究論文を公開した。

③研究会会報及び研究会ホームページにおける研究公開

各研究会発行の会報及び各研究会公開のホームページにおいて、様々な分野における研究調査の研究公開を実施した。

(4) 郵趣カンファレンス

各専門分野の先進学術事例の調査研究を進めるとともに、この知見を相互に有効活用するため郵趣カンファレンスを開催した。また、郵趣カンファレンスにおける発表・意見交換会を踏まえて、その学術事例を出版物及びホームページを活用して発表・公開した。

①ペニーブラックとビクトリア時代

会期：6月12日(日)、スピーカー：安藤裕氏(イギリス切手研究会)、聴講者7名、会場：切手の博物館(豊島区)。

②アメリカ切手発行175年 ミニペックス作品解説

会期：7月3日(日)、スピーカー:小林伸佳氏(アメリカ郵趣研究会)、聴講者19名、会場:切手の博物館(豊島区)。

③現代郵趣を例にした競争展出品戦略

会期：11月6日(日)、スピーカー:虎頭雄彦氏(公認審査員)、須谷伸宏氏、聴講者20名、会場:東京都立産業貿易センター台東館(台東区)。

④現代日中関係史

会期：2023年2月5日(日)、スピーカー:内藤陽介氏(テーマティック研究会)、聴講者15名、会場:切手の博物館(豊島区)。

⑤初期の和文櫛型印の郵便使用(1906~1913)

会期：2023年3月18日(日)、スピーカー:饗場敏明氏(菊・田沢切手研究会)、聴講者21名、会場:切手の博物館(豊島区)。

(5) 文化シンポジウム

講演会、パネルディスカッション、トークショー等の形式により文化シンポジウムを開催し、知見の交換を図るとともに多くの人に参加できる機会を創出した。

①会期：4月22日(金)~4月24日(日)、会場：スタンプショウ2022/東京都立産業貿易センター台東館(台東区)。

A. 研究発表「オンライン展示会のあり方ー作品デジタル化手法の一例ー」、講師:江村清氏(絵画切手研究会)、聴講者15名。

B. 講演会「アフガニスタン現代史」、講師:内藤陽介氏、聴講者25名。

C. トークショー「3人の切手女子が語る『切手にみる食の世界』」、ゲスト:ばばちえ氏、柴田公子氏、沖下倫子氏、聴講者55名。

D. 講演会「切手でたどる郵便制度150年の歴史 Vol.3 平成・令和編」
講師:内藤陽介氏、聴講者40名。

E. 講演会「なぜ山手線は円形なのか?ー初期の都市交通が日本に与えた影響」、講師:榎沢祐一氏、聴講者25名。

F. 講演会「本土復帰50周年記念 沖縄切手総カタログ 増補版」、講師:秋吉誠二郎氏、聴講者30名。

G. トークショー「切手趣味週間切手を振り返る」、ゲスト:玉木明氏(日本郵便(株)切手デザイナー)、聴講者75名。

H. 講演会「今さら聞けない~郵便の基礎知識~2022」、講師:富澤昇吉氏、聴講者35名。

②会期:6月11日(土)、会場:全国郵趣大会2022in川越&関東郵趣大会2022in川越/川越プリンスホテル(埼玉県川越市)。

A. 講演会「私の集めているもの」、講師:玉木淳一氏、聴講者60名。

③会期:9月4日(日)、会場:スタンプショウ広島2022/県立広島産業会館(広島市)。

A. 講演会「日本切手の壺を語る」、講師:山口充氏(菊・田沢切手研究会)、聴講者40名。

④会期:9月25日(日)、会場:「おめでとう! 10周年 切手のぼすくま 大集合展/切手の博物館(東京都豊島区)。

A. トークショー、ゲスト:中丸ひとみ氏(日本郵便(株)切手デザイナー)、聴講者20名。

⑤会期:11月4日(金)~11月6日(日)、会場:第57回全国切手展JAPEX2022/東京都立産業貿易センター台東館(台東区)。

A. 講演会「切手デザインの現場は博物館だった!?~100年前の『富士鹿切手』の作者から通信図案部の仕事まで~」、講師:井村恵美氏(郵政博物館主席学芸員)、聴講者25名。

- B. 研究発表「アメリカ切手175年の歴史 製造面からの概観」、講師:小林伸佳氏(アメリカ郵趣研究会)、聴講者25名。
- C. トークショー「鉄道150年エピソードトーク～題材選定から制作・発行まで～」、ゲスト:丸山智氏(日本郵便(株)切手デザイナー)、聴講者50名。
- D. 講演会「日中国交”正常化”50年とは何だったのか」、講師:内藤陽介氏、聴講者35名。
- E. 講演会「郵便条例と5厘はがき」、講師:近辻喜一氏、聴講者35名。
- F. トークショー「切手デザイナー観察記～『切手デザイナーの仕事』発刊を記念して～」、ゲスト:玉木明氏(日本郵便(株)切手デザイナー)、間部香代氏(作家)、聴講者65名。

⑥会期:12月24日(土)、会場:切手の博物館のクリスマス/切手の博物館(豊島区)。

- A. トークショー「冬のグリーティング切手」、ゲスト:楠田祐士氏(日本郵便(株)切手デザイナー)、聴講者25名。

(6) 展覧会助成

郵便切手文化に関する学術研究において、社会的要請及び将来の発展が期待できる研究課題の発表・公開に対して展覧会助成を実施した。[会場はいずれも切手の博物館]

①魚木式郵趣展

会期:4月29日(金・祝)～5月1日(日)、来場者130名(前年度中止)、主催:魚木五夫氏。

②東大切手研究会創立75周年記念切手展

会期:7月16日(土)・17日(日)、来場者170名、主催:東京大学切手研究会。

③なでしこ切手倶楽部展2022

会期:11月11日(金)～11月13日(日)、来場者310名(同180名)、主催:なでしこ切手倶楽部。

④第18回中国郵票展

会期:2023年1月28日(土)・29日(日)、来場者130名(同130名)、主催:福井和雄氏。

5. 国際文化交流事業

日本と海外諸国・地域との文化活動の交流を図り、友好関係と相互理解を増進するため、自国の歴史・文化を伝える「小さな外交官」と形容される郵便切手類を通して、国際文化交流を推進した。

(1) 各国外交機関及び各国郵政機関との協働による国際文化交流

各国外交機関による周年記念事業認定のもと、文化シンポジウム・イベント等を企画・実施してPR効果を高め、国際文化交流の活性化に努めた。

①イギリス切手研究会切手展2022

会期:6月11日(土)・12日(日)、会場:切手の博物館(豊島区)、後援:日英協会、日本スコットランド協会。イギリス切手作品18作品34フレームを展示。

②アメリカ切手展2022 america'22

会期:7月1日(金)～7月3日(日)、会場:切手の博物館(豊島区)、後援:アメリカ大使館。アメリカ切手作品13作品30フレームを展示。

③アメリカ切手発行175年展

会期:11月4日(金)～11月6日(日)、会場:東京都立産業貿易センター台東館(台東区)、後援:外務省、文部科学省、アメリカ大使館、東京新聞、産経新聞社。アメリカ切手作品25作品68フレームを展示。

④YouTube動画配信:日本国際切手展2021アーカイブ

「日本国際切手展2021 本日オープン!」「郵便創業150年特別展示 見どころレポート」「世界からの競争出品～応募から授賞式まで～」を配信。

(2) 国際切手展における国際文化交流

国際切手展の視察、国際郵趣セミナー等の参加を通じて、海外諸国・地域の郵趣家とのネットワークの形成・強化を図るとともに、国際文化交流を契機とした新たな郵便切手文化の研究を推進した。

①国際切手展「INDONESIA 2022」への文献出品、視察、研究発表

「日本普通切手専門カタログVol.1～Vol.3」を出品し金銀賞を受賞した。会期：8月4日(木)～8月9日(火)、会場：インドネシア議会ビル(インドネシア・ジャカルタ)

(3) 海外義援金活動

ウクライナにおいて緊急支援を必要としている人々を支援するため、「世界切手まつり スタンプショウ2022」において「ウクライナ人道危機救済義援金」活動、「日本郵趣協会創立75周年記念祝賀会」において「ウクライナ人道危機救済チャリティ・オークション」を実施して、国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) に義援金を寄付した。

6. 流通促進事業

文化的及び歴史的資料として貴重な国民的財産である郵便切手類を拡散・劣化させることなく、次世代へ着実に継承するため、流通促進事業を実施した。

(1) 流通促進の基盤整備

郵便切手類の偽造品・変造品の不正流通を防止するためにさまざまな対策をとり、郵便事業に対する信頼を確保するため、偽造品・変造品に関する情報をデータベースとして蓄積するとともに、郵便切手文化の保全と健全なる市場の形成を図り、広く利用者の便宜性と拡大に努めた。

(2) 公開入札制度<JPSオークション>

公正かつ厳格なマネジメントによる公開入札制度を通して、郵便切手文化を広く一般社会に敷衍するとともに、郵便切手類への不当な投機的流通を防止し、郵便切手類の価値の公正化を図った。

①第539回 締切日：4月23日(土)、会場：東京都立産業貿易センター台東館(台東区)

②第540回 締切日：7月12日(火)、メールオークション

③第541回 締切日：9月13日(土)、メールオークション

④第542回 開催日：11月5日(土)、会場：東京都立産業貿易センター台東館(台東区)

⑤第543回&544回 締切日：2022年2月5日(土)、メールオークション

出品総数：7,014ロット(前年度6,383ロット)、落札総高：42,092千円(同53,400千円)。

7. 顕彰事業

日本及び世界各国の郵便切手類及び郵便制度に関して、その普及啓発並びに調査研究に貢献した功労者(個人及び団体)を顕彰し、郵便切手文化の振興と水準高度化を図った。

(1) 選考委員会

各授賞要項に基づき各選考委員会を設置するとともに、選考基準に基づき授賞者を選考した。

①第43回中島健蔵・水原明窗記念賞

中島健蔵・水原明窗記念賞選考委員会(委員長：山田廉一、委員：池原郁夫、稲葉良一、落合宙一、福井和雄、村岡安廣、山口充)を設置し、4月23日(土)に選考委員会を開催、受賞者に玉木淳一氏、近辻喜一氏を決定した。

②国際大賞(トレシー・ウッドワード記念賞)

顕彰選考委員会(委員長：山田廉一、委員：荒木寛隆、井上卓朗、落合宙一、正田幸弘)を設置し、3月19日(土)に選考委員会を開催、該当者なしとして見送った。

③第42回郵趣活動賞(個人部門、団体部門)

同上の選考委員会を設置し、次の通り決定した。

A. 個人部門:中館輝厚氏、長島裕信氏、七海義継氏の3名

B. 団体部門:聴覚障害者切手研究会

④第42回郵趣文献賞

同上の選考委員会を設置し、受賞文献に次の文献を決定した。

「郵便が語る 台湾の日本時代50年史」(玉木淳一著)

⑤第39回小倉謙賞

第57回全国切手展JAPEX2022審査員会の審査員で選考委員会(委員長:石川勝己)を設置し、11月4日(金)に選考委員会を開催し、該当作品なしとして見送った。

⑥第37回住野正顕賞

第57回全国切手展JAPEX2022審査員会の審査員で選考委員会(委員長:石川勝己)を設置し、11月4日(金)に選考委員会を開催し、受賞者に榎原晃二氏「ウルグアイ 1856-1884」を決定した。

⑦第2回手嶋康賞

第57回全国切手展JAPEX2022審査員会の審査員で選考委員会(委員長:石川勝己)を設置し、11月4日(金)に選考委員会を開催し、受賞者に小寺雅弘氏「小判切手にみられる外国郵便用消印」を決定した。

⑧登録支部・団体50周年特別表彰

設立50周年を迎えた表彰対象の登録支部・団体はなかった。

⑨創立75周年特別功労者表彰

創立75周年委員会で選考委員会(委員長:池原郁夫)を設置し、永年にわたり郵趣の普及振興に多大な貢献のあった方19名を創立75周年特別功労者として選考した。

(2) 授賞式

表彰は授賞式をもって行うとともに、選考結果は『郵趣』及びホームページにおいて公開した。

①第43回中島健蔵・水原明窓記念賞は、第57回全国切手展JAPEX2022において受賞者を発表するとともに、授賞式を公開で実施した。あわせて受賞記念講演を実施した。

②第42回郵趣活動賞(個人部門、団体部門)及び第42回郵趣文献賞は、全国郵趣大会2022in川越&関東郵趣大会2022in川越において受賞者を発表するとともに、授賞式を公開で実施した。

③第37回住野正顕賞は、第57回全国切手展JAPEX2022において受賞者を発表するとともに、授賞式を公開で実施した。

④創立75周年特別功労者表彰は、日本郵趣協会創立75周年記念祝賀会において受賞者を発表するとともに、授賞式を公開で実施した。

8. 社会貢献・地域支援事業

郵便切手文化の発展向上に資するとともに「新しい公共」の担い手としての役割を推進するため、パートナー・サポート企業・団体との協働により広く社会一般に貢献する事業を行った。また、地域市民が行う郵便切手文化の公益的活動への助成や情報・ネットワーク支援を図るとともに、文化活動を担うボランティアの醸成と創造性豊かな人材育成に取り組んだ。

(1) 「手紙を書こう!プロジェクト2022」

あらゆる世代において郵便切手文化に触れ合う機会を創出し、手紙コミュニケーションの楽しさを体験してもらうとともに、生き生きとした心豊かな社会の実現を目指していくため、日本郵便(株)をはじめとした多様なパートナー・サポート企業・団体の協賛を得て実施した。

①ゆうびんde自由研究・作品コンテスト2022(第11回)

郵便切手類の歴史や文化を身近に感じ親しんでもらうため、小学生児童を対象にして、郵便に必要な切手、消印を題材にした自由研究作品(切手部門、風景印部門)を公募した。児童生徒のSDGsを達成するための学習支援事業として4つの目標を掲げ、郵便切手と郵便消印を題材とする夏休みの自由課題として取り組んでもらえるように教育機関等への周知に努め、文部科学大臣賞表彰を実施した。

発表会：8月19日(金)～8月21日(日)、会場：目白・椿ホール(豊島区)、来場者700名。後援：文部科学省、(公社)日本PTA全国協議会、全国市町村教育委員会連合会、全国連合小学校長会、日本私立小学校連合会、豊島区教育委員会、産経新聞社、日本教育新聞社、特別協賛：日本郵便(株)、協賛：(一財)水原フィラテリー財団、サントリービバレッジソリューション(株)、(株)デサント、ピツニーボウズジャパン(株)、リソー教育グループ。応募作品：切手部門：25作品(2021年度11作品)、風景印部門：259作品(同265作品)、優れた作品に文部科学大臣賞及び特別賞(7協賛企業・団体)を授与した。

※NIKKYO教育支援プラットフォーム参画

②タイムカプセル郵便

手紙コミュニケーションの楽しさを体験してもらうとともに、その時代の文化を未来にレガシーとして継承するため、メッセージとなる記録を手紙というツールを通じて、最大10年先まで保管して郵便として届けた。また日本郵便(株)をはじめとしたパートナー・サポート企業・団体と協働して普及を図った。

募集期間：4月1日(金)～2023年3月31日(金)[通年]、引受通数：25,149通(前年度25,947通)、協賛：日本郵便(株)、(一財)水原フィラテリー財団、リソー教育グループ。

※日本郵政(株)の商標登録使用許諾事業

③Otegamiフリマ

フリーマーケット形式のイベントとして広く郵便切手雑貨関連のブース出展を募り、郵便切手文化の魅力を再発見してもらうため、お手紙コーナー及びデコレーションポストの設置、郵便局臨時出張所による記念押印サービス等を実施した。

A. Otegamiフリマ2022 SUMMERコレクション 会期：5月20日(金)・21日(土)、来場者800名。

B. Otegamiフリマ2022 AUTUMNコレクション 会期：8月19日(金)・20日(土)、来場者700名。

C. Otegamiフリマ2022 WINTERコレクション 会期：11月26日(金)・27日(土)、来場者800名。

D. Otegamiフリマ2023 SPRINGコレクション 会期：2023年2月17日(金)・18日(土)、来場者800名。

会場：A.C.D.は切手の博物館(豊島区)、B.は目白・椿ホール(豊島区)、共催：(一財)水原フィラテリー財団、協賛：日本郵便(株)、リソー教育グループ。

④手紙ワークショップ

手紙が本来持っている「想いを伝える力」や新たな手紙コミュニケーションの魅力を再発見してもらうため、手紙を書いて、宛名を書き、切手を貼り、郵便局臨時出張所で小型印等の記念押印をしてもらい、郵便ポストに投函するという一連の流れを体験してもらった。

A. 母の日は手紙を書きませんか

実施イベント：世界の切手カード&しおり作り、引受押印用特設ポストの設置

会期：4月22日(金)～24日(日)、会場：東京都立産業貿易センター台東館(台東区)

会期：5月3日(火・祝)、会場：切手の博物館(豊島区)

B. ぽすくまにおたよりを送ろう!

実施イベント：”ぽすくまと仲間たち うでピタバルーン”の無料配布

会期：8月19日(金)・20日(土)、会場：目白・椿ホール(豊島区)

会期:9月17日(土)~25日(日)、会場:切手の博物館(豊島区)

C. クリスマスポストカードdeお手紙書こう!

実施イベント:切手デザイナーによるオリジナル・クリスマスポストカードの制作・頒布

会期:12月3日(土)~12月25日(日)、会場:切手の博物館(豊島区)、参加者1,000名。協賛:日本郵便(株)、(一財)水原フィラテリー財団、リソー教育グループ。

(2) 登録支部・団体制度と地域文化活動の支援

郵便切手文化の普及の担い手である市民文化活動の振興を図るため、登録支部・団体制度を活用して連携・強化を図り、各地域における自主的活動や特性を發揮しながら効果的な事業が推進できるように支援した。

①地域における郵便切手文化に関する研究発表、作品解説への講師派遣

地方本部及び登録支部・団体が主催するイベントに、講師の派遣を実施した。

②地域が取り組む展覧会及び切手教室への助成

登録支部・団体が開催した延べ25回の展覧会への助成を実施した。

③郵便切手文化活動への広報協力

『郵趣(YUSHU)』及び協会ホームページにおいて、地域が取り組む郵便切手文化活動の広報に努めた。

④地域文化活動の活性化及び企画プログラムの提供

地方本部及び登録支部が主催するイベントに、企画展示の作品斡旋、紹介等を実施した。

(3) パートナー企業・団体との協働プロジェクト

企業・団体と当協会が互いの特性や持てる資源を活かし合って、その取り組む課題やプロセスを共有し、協働して郵便切手文化に関する新たなニーズに応えた。

①日本郵便(株)との手紙振興プロジェクト

A. 手紙の書き方体験授業との連携

B. 『Letter Park』への情報掲載

4月号、7月号、9月号、10月号、11月号、12月号

②切手デザイナーとの連携・協力

A. 切手デザイナートーク&サイン会

(a)テーマ:「切手趣味週間切手を振り返る」、ゲスト:玉木明氏(切手デザイナー)、会期:4月24日(日)、会場:東京都立産業貿易センター台東館(台東区)。

(b)テーマ:「おめでとう!10周年 切手のぼすくま」、ゲスト:中丸ひとみ氏(切手デザイナー)、会期:9月25日(日)、会場:切手の博物館(豊島区)。

(c)テーマ:「鉄道150年エピソードトーク~題材選定から制作・発行まで~」、ゲスト:丸山智氏(切手デザイナー)、会期:11月4日(金)、会場:東京都立産業貿易センター台東館(台東区)。

(d)テーマ:「切手デザイナー観察記~『切手デザイナーの仕事』発刊を記念して~」、ゲスト:玉木明氏、会期:11月5日(土)、会場:東京都立産業貿易センター台東館(台東区)。

(e)テーマ:「冬のグリーティング切手」、ゲスト:楠田祐士氏(切手デザイナー)、会期:12月24日(土)、会場:切手の博物館(豊島区)。

B. 記念小型印及び各種制作物のデザイン制作

(a)記念小型印「母の日は手紙を書きませんか」のデザイン

使用期間:5月3日(火)、開設場所:切手の博物館(豊島区)

(b)記念小型印(3種)「切手の博物館のクリスマス」のデザイン、クリスマス・ポストカードのデザイン制作

使用期間:12月7日(火)、12月21日(火)、12月24日(金)、開設場所:切手の博物館(豊島区)

C. 展覧会の各賞選考

(a) フリースタイル切手展2022選考委員

選考委員として玉木明氏(切手デザイナー)を招請、選考日:2022年3月24日(木)、選考会場:切手の博物館(豊島区)。

(b) ゆうびんde自由研究・作品コンテスト2022審査員

審査員として山田泰子氏(切手デザイナー)を招請、審査日:8月9日(火)、審査会場:切手の博物館(豊島区)

D. 年賀はがき面白情報

年賀はがき、年賀状の差出に関心をもってもらうため、2023年用年賀はがきに関する面白情報の提供を受け、JAPEX2022(台東区)及び切手の博物館(豊島区)において展示・公開した。

③(公財)通信文化協会との連携・協力

A. 企画展示のコラボ企画

特別展示:「富士鹿切手」の原画、「第2回国民体育大会記念切手」の試刷等、会期:11月4日(金)~11月6日(日)、会場:第57回全国切手展JAPEX2022/東京都立産業貿易センター台東館(台東区)。

B. 講演会のコラボ企画

講演会:「切手デザインの現場は博物館だった!?~100年前の『富士鹿切手』の作者から通信図案部の仕事まで~」、講師:井村恵美氏(郵政博物館主席学芸員)、会期:会期:11月4日(金)、会場:第57回全国切手展[東京都立産業貿易センター台東館(台東区)]。

C. フリースタイル切手展2022選考委員

選考委員として田仲明子氏(郵政博物館学芸員)を招請、選考日:2022年3月24日(木)、選考会場:切手の博物館(豊島区)。

④IT・通信企業とのオンライン協働プロジェクト

「オンライン郵趣」の開催の伴いIT・通信企業との協働プロジェクトを開始したが、先方の都合で継続を断念した。

(4) ボランティアの醸成

郵便切手文化に関する理解と関心を高めてボランティア活動への市民参画の促進を図るため、体験情報を発信し、支え合いの輪を広げる仕組み作りを推進した。

①郵趣のための押印講習会(技能認定制度)

押印講習会を8回開催するとともに、押印に関する専門的な知識を技術が優秀と認められた方への「押印認定書」(1級~3級)の授与を4名予定する。押印ボランティア登録者:22名、押印認定者:35名。

②展覧会運営ボランティアの公募

当協会の公式ホームページをはじめ、ボランティア募集を掲載するWEBサイト3社に登録して体験・情報提供を行い、支え合いの輪を広げる仕組み作りを推進した。

A. 4月22日(金)~24日(日)開催の世界切手まつりスタンプショー2022に一般ボランティア12名の応募があり、延べ16名が運営ボランティアとして参加した。

B. 11月4日(金)~11月6日(日)開催の第57回全国切手展JAPEX2022に一般ボランティア17名の応募があり、延べ21名が運営ボランティアとして参加した。

(5) 公益活動への支援

様々な主体の参加を通して協働を促進する活動、営利を目的としない自主的・自発的な社会貢献活動である公益活動を担っている団体への支援を行った。

①切手バザール

(一財)水原フィラテリー財団主催の「切手バザール」の開催を支援した。会期:5月14日(土)・15日(日)、6月18日(土)・19日(日)、7月9日(土)・10日(日)、10月8日(土)・9日(日)、2023年1月14日(土)・15日(日)、2023年2月25日(土)・26日(日)、2023年3月25日(土)・26日(日)、延べ7回、会場:いずれも切手の博物館(豊島区)。

②全日本切手展2022(第72回)

全日本切手展実行委員会主催の「全日本切手展2022」に後援、特別賞を授与した。会期:7月16日(土)～7月18日(月・祝)、会場:すみだ産業会館(墨田区)。

③切手の博物館のクリスマス

(一財)水原フィラテリー財団と共催して、「切手の博物館のクリスマス」を開催した。会期:12月3日(土)～12月25日(日)、会場:切手の博物館(豊島区)。

④第25回目白ロードレース

目白ロードレース実行委員会主催の「第26回目白ロードレース」に協賛した。会期:2023年3月12日(日)、会場:学習院キャンパス周辺。

9. 公益事業資金の造成

郵便切手文化の向上発展に資するとともに未来に継承する公益事業資金造成のため、協賛していただける企業・団体の募集、幅広く多くの方々に気軽にご支援いただけるよう様々な形での寄付を募るとともに、当協会の事業を紹介したパートナー企業・団体向けリーフレットを制作した。公益事業資金への功績が顕著な個人、法人・団体には感謝状を贈呈し、益金は広く社会一般に還元する事業のために充当した。

(1) パートナー・サポート企業・団体の募集

世界切手まつりスタンプショー2022に対して17企業・団体(2021年度10企業・団体)、第57回全国切手展JAPEX2022に対して8企業・団体(同8企業・団体)から協賛、協力の支援を得た。

(2) 使用済み切手、書き損じはがきの募集

募集期間:2022年4月1日(金)～2023年3月31日(金)、協賛件数:2,762件(同2,468件)。

(3) 財政安定化寄附金(一般寄附金)

募集期間:2022年4月1日(金)～2023年3月31日(金)、協賛者:9名、10,110,000円(同8名、1,728,987円)。

(4) スタンプショー2022寄附金(特別寄附金)

募集期間:1月4日(火)～5月31日(火)、特別寄附金:21口(1口3万円)、一般寄附金:352口(1口4,000円)、協賛者:300名、2,041千円(同274名、1,837千円)。

(5) JAPEX2022寄附金(特別寄附金)

募集期間:7月1日(金)～11月6日(日)、特別寄附金:44口(1口3万円)、一般寄附金:464口(1口4,000円)、協賛者:394名、3,179千円(同398名、3,087千円)。

(6) 特別寄附金の表彰制度(特別表彰、マルチプル表彰、メジャードナー表彰)

スタンプショー及びJAPEXの各寄附金において「特別寄附金」に多額の支援をいただいた方に対して、「世界切手まつりスタンプショー2022」で特別表彰11名、マルチプル表彰2名、「第57回全国切手展JAPEX2022」で特別表彰22名、マルチプル表彰13名を表彰した。

(7) 紺綬褒章の授与

公益のために私財を寄附した方を対象にして、総務省を通じて内閣府に紺綬褒章の授与申請を行った。

Ⅱ 管理部門

1. 会員事業

情報提供サービスの充実と会員のサポートが図れるような施策を実施し、そのメリットを高めていくことにより、会員の維持・拡大を図った。

(1) 会員の維持・拡大

当協会の事業内容の紹介活動を積極的に行うとともに、新規会員獲得に向けたキャンペーン活動を強化する。また退会防止に向けて、魅力ある会員サービスを積極的に提供した。

①春の入会キャンペーン&WEB会員入会キャンペーン

実施期間:4月1日(金)~6月30日(木)、入会者:18名(うちスタンプショウ2022会場9名)。

②秋の入会キャンペーン&WEB会員入会キャンペーン

実施期間:10月1日(土)~12月24日(土)、入会者:21名(うちJAPEX2022会場2名)。

③秋の口座振替登録キャンペーン

実施期間:10月1日(土)~12月24日(土)、登録者:36名(前年39名)。

④ご移籍のお願いキャンペーン

会費改定と同時期となるため実施を見送った。

⑤『正会員会報』月刊/12回発行

10月号より『郵趣』との同送を開始した。

(2) 定期刊行物の維持・拡大

学術研究成果や郵趣最新情報を広く還元できる体制作りを図るため、割引特典の優遇措置を提供する等、定期購読者の利益に供するキャンペーン施策を実施した。

①『郵趣研究』購読者拡大キャンペーン

実施期間:6月1日(水)~8月31日(水)、クレジットカード登録者:48名、新規購読者15名。

②『郵趣ウィークリー』購読者拡大キャンペーン

実施期間:11月25日(金)~12月24日(土)、新規購読者:紙版2名、WEB版3名(前年5名)。

(3) 会員情報管理システムの整備

会員情報を組織的に適正に管理してデータの円滑な利活用を行うため、会員情報管理システムを整備するとともに、事務の簡素化・効率化及び情報提供サービスの高度化を推進した。

2. 交流事業

心豊かな潤いのある社会創造の理念に基づき、会員相互の交流と親睦を深めるとともに、郵便切手文化を国民の資源として共有・活用できる基盤作りを図った。

(1) 日本郵趣協会創立75周年記念祝賀会

創立75周年特別功労者表彰(表彰者19名)を実施して会員への感謝の気持ちを伝えるとともに、パートナー企業・団体との関係強化を図り、郵趣の活性化と社会的認知度の向上を図った。

会期:2022年4月23日(土)、会場:帝国ホテル・本館「富士の間」(千代田区)、参加者147名、スライド上映:「協会75周年の歩み」、ウクライナ人道危機救済チャリティオークションの実施。

(2) 新春交歓会

郵便切手文化関係者が一堂に会し、日頃の事業活動に基づく体験や知識をもとに互いに研磨し、新たな発展を図るための意見交換を行うとともに、郵便切手文化の未来を築いた。

①東京・新春交歓会2023

会期:2023年1月14日(土)、会場:アンジェロコート東京(豊島区)、参加者61名(2021年度40名)。

②大阪・新春交歓会2023

会期:2023年1月9日(月・祝)、会場:徐園(大阪市)、参加者26名(同19名)。

(3) 地方本部主催の郵趣大会

①東北郵趣大会2022in山形(第30回)

会期:6月[中止]、会場:ヒルズサンピア山形(山形市)、主催:北海道・東北地方本部。

②関東郵趣大会2022in川越(第38回)

会期:6月11日(土)、会場:川越プリンスホテル(川越市)、参加者96名(前年度76名)、主催:関東地方本部。

③北海道郵趣大会2022in札幌(第36回)

会期:10月3日(土)・4日(日)[中止]、会場:ホテルサンルートニュー札幌(札幌市)、主催:北海道・東北地方本部。

(4) 展覧会交流会

①関西スタンプショウ交流会

会期:7月30日(土)、会場:大阪キャッスルホテル「錦城閣」(大阪市)、参加者:11名、主催:関西地方本部。

②スタンプショウ広島2022郵趣交流会

会期:9月3日(土)、会場:広島県立産業会館(広島市)、参加者:26名、主催:中国・四国地方本部、スタンプショウ広島実行委員会

③彩PEX2022記念交流会

会期:9月24日(土)、会場:川越湯遊ランドホテル三光(川越市)、参加者:28名、主催:関東地方本部、川越支部。

④JAPEX2022交流会

会期:11月5日(土)、会場:ダイニングバー「フラムドール」(台東区)、参加者:44名、主催:JAPEX2022実行委員会。

(5) コミュニティ通貨「フィラ」

お金では表せない「善意」を交換するコミュニティ通貨「フィラ」の普及拡大と流通促進により、ボランティア活動の活性化を図るとともに、郵便切手文化サービスの循環によって生き生きとした心豊かな社会の実現を目指した。発行数:36,756枚、流通数:578枚(流通率1.6%)。

2022年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

2023年6月

公益財団法人 日本郵趣協会